

平成28年度 事業報告書

特別養護老人ホーム 大慈弥勒園

1. 《平成28年度法人ヴィジョン》

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

2. 《基本方針》

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的、肉体的な援助を行なう。又、ゲストの皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方及びご家族に満足していただけるサービスを提供する。特養においては、認知症専門棟及び一般棟の特色を活かしたケアができる様に努める。

3. 《中長期計画》

●最終目標

- ①『ふあっとほーむな生活を目指す』

※ふあっとほーむとは、和みのある家庭的な雰囲気の中で、人と人とのつながりを大切にすること

- ②『一人ひとりが輝き、あなたが主役になる場所を目指す』

●中期目標

- ①経営理念やヴィジョンを全員が把握し、徹底していくことで特色ある施設作りができる。
- ②職員レベルを向上させプロ集団を形成すると共に、サービスの質を向上させる。

●平成28年度重点目標

『a l l f o r o n e』・・・組織力の強化

- ①様々な媒体等を活用して、情報の共有を図る。
- ②サービス品質の共有の為、遠藤メソッドを導入する。
- ③顧客確保及び人財確保の為、広報活動を推進する。
- ④老朽化等に伴う設備改修工事を計画的に行う。
- ⑤EPA受け入れの為の準備を行う。
- ⑥介護職員の腰痛者を減少させる。
- ⑦職員会議で、部署間の課題解決に向けた具体策を提示し、実行していく。

4. 《部門別目標》

<ケア部門>（1F→プラム棟、3F→一般棟）

<目標>

- ◎プラム棟：『認知症ケアが出来る様になる』

- ①チームワーク力の向上

A) 統一したケアを行い、周辺症状のないフロアを目指す

統一したケアを目的として、毎月の会議で周辺症状や問題のあるゲストを挙げ、皆で意見を出し合いケアの統一を図った。翌月に評価をし、改善に繋げることが出来たゲストも多くいた。結果が見える事で統一したケアの重要性も、それぞれが理解出来たので

はないかと感じる。外出行事に関しても、看取りゲスト3名、ご家族様と一緒に外出する事も出来た。また、今年度は、にこにこ保育園にご協力をいただき、運動会を見に行けたことで、普段とは違ったゲストの微笑ましい表情を多く見る事もできた。午後のレクリエーションも月替わりに事業計画通り継続して実施する事ができた。

B) 水分量1, 500mlと食事摂取量9割の維持・向上と日中の失便率30%以下

年間を通して、食事摂取平均量9割と水分摂取平均量1, 500mlの目標は達成することができた。日中の便失禁率に関しては、4月20%から3月は25%となり、減少させることが出来なかったが、布パンツ変更の検討を行い、17名のゲストが日中布パンツを使用するようになった。オムツ発注金額の減少までは至らなかったが、コストダウンに向けて取り組むことができた。

毎月の食事バイキングも継続して行う事は出来たが、マンネリ化しているので、来年度は、他職員からの意見やアイデアをもらいながら、新たな企画も考案していき、ゲストの楽しみのひとつとなる様に繋げていけたらと思う。

②安心・安全なケアを提供できる。(事故発生率、前年度比3割減)

A) 何でも話せる環境作りと遠藤メソッド導入での新人育成を図る。

毎日記入している危険予知シートの活用として、会議にて事例検討したり、写真を用いて危険予知訓練を行う事ができた。会議で話し合う事で、それぞれの意見も出し合うことが出来ていたと感じる。

また、業務改善のアンケートを定期的に行う事で、それぞれの業務についての意見を収集する事は出来たが、具体的に改善へ向けての発信が少なかったように思う。遠藤メソッド導入での新人育成に関しては、職員数名が介護技術標準を作成できるようになっているが、技術標準の内容を全職員に周知徹底させることが不十分である。

今後は技術標準を使い、新人育成を図れる様に活用していきたい。

B) 清潔に対する一人一人の意識の強化。

フロア毎の担当者を決めて、改善策を考え整理整頓を行った。今年度は、普段出来ていなかった全居室のカーテンを洗濯する事もできた。また一人一人の意識の向上を目的とし啓発ポスターを掲示するなどの工夫をしたことで、ある程度は整理整頓が出来る様になってきている。

ゲストの衣類に関しては、食事時のエプロン着用、1日2回の衣類チェックを毎日行う事で、清潔な衣類を着ていただけるようになった。汚れていたら更衣をするという事が、当たり前のことではあるが、自然にできる様になってきた事は評価したい。

◎一般棟：『全ゲストの企画を行い、あなたが主役になれる行事を開催する』

①上司と月1回の面談。

A) 統一された面接シートを使用し、面談を行う。

B) 主体性を引き出す為に面接・コーチングスキルを勉強する。

C) 面談と人材育成システムの目標管理をリンクさせる。

職員面談に関してはその必要性和効果は昨年度実績から高いものであった為、当年度においても、チーム力が高まる為の一つの仕掛けとして面談を取り入れた。又、当年においては「面談時に使用するシート」をリーダー会議で作成し、活用したことで目標管理の内容が良くなった。

面談において聞き取った、相談内容や問題として個人・家庭・仕事・ストレスと多種多様であり、幅広く悩みを抱えていたのが現状であった。危機管理や労務上、管理の一環として、どこまで相談を受ける必要性があり、どこまで対策(体制)を取るべき必要があるのか、難しく悩ましい場面も多々あった。制度・法律・規定変更等、守るべきことや大切にすべき事が増加している中、チーム力や働きやすい環境づくりの為に労力も

増加していると考え。これらの課題を元に、次年度においては、リーダーの下に配置している中堅職員・プリセプター（指導担当者）の教育活動を強化したい。

②ゲストのケース検討会議を毎月開催する。

- A) 各職員よりサービスの実施状況の報告を行い、評価・検討される。
- B) 検討内容と行動結果が月のケース記録に反映される。
- C) 介護の専門性（考察）が入った総括が記載される。

ケアマネジメントの高循環を目的にゲストのケース検討会議を開催した。ニーズや要望を汲み取り、ケアプランの目標達成・企画行事の開催や課題解決を行ってきた。その結果、年間において企画行事（フロア全体・食事関係・誕生日会・個別）を66件計画・実行し、数値目標としていた、全ゲストの企画行事の部署目標を遂行した。

③自覚と責任が持てる仕組みづくりを行う。

- A) 役割・担当の見える化を図り、情報が各担当者へ集まる仕組みをつくる。
- B) 新人・中途研修にて各担当者より基本的理解と概要が説明される。

各職員の役割の見える化、情報が各担当者にあつまり、自覚が持てる仕組みづくりを行ってきた。そして、部署会議にてOFF-JTが開催され各担当者が発表・講義が行われ、発表者・受け手双方が学ぶ機会となる仕組みを作った。結果、年間ベースで割り振りを行い、各担当者の講義が毎月開催された。又、発表に際し個人の役割や作業を洗い出しタスク管理を行った。その後、集約・スケジュール管理作業を行い、経営資源（ヒト・モノ・カネ・トキ）のムダ・ムラを除去した、合理的な運営を目指してきた。働くスタッフに関しても自身の行動や役割を認識し、積極性が芽生え、さらに教育的価値やサービスにおける質向上等の付加価値が生まれたと考えてる。

④正しい判断と行動ができる為の環境づくりを行う。

- A) 働きやすい環境づくりを目指し、整理・整頓を行う。
- B) 朝の引継ぎで本日の留意点を申し送る。
- C) 5W2Hを用いた記録が出来る。（引き継ぎシート）
- D) 職員による予定の更新。
- E) 部署内のタスク管理表を作成する。

各ケース担当者から発信されるゲストの個別情報・委員会担当者や役割担当者から発せられる事等、業務連絡が膨大な情報として管理しているのが現状である。退職者の減少等、人員配置の安定により日々の出来る事や活動が増えた中、サービス品質や取り組みは向上している。だが、情報伝達の漏れや未記入等の課題も多数あり、正しい判断による合理的な行動が出来る為の環境づくりは、常に求めなければならない。その一つとしてICT導入の検討課題としたい。

5. <相談援助部門>

<目標>

①ゲスト情報を一元化し、ケアプランを中心としたケアマネジメントの構築を図る。

- A) カンファレンス数の増加とアセスメントツールの作成。

②モニタリングの精度を上げる

- A) 実施状況の見える化（ケア状況の写真・動画撮影と検証等）。
- B) 「ほのぼの」を活用し、検討事項を誰もが確認出来るシステム作り。

情報共有に着目し、改善を図った年度であった。一部の職員ではあるが、情報を有効に活用する事もできており、一定の効果はあったように感じる。反面、進める中で情報量が膨大になり、取りまとめがうまくいかない点がある。ベースアップに向け、今後も検討を重ねる必要があるように感じる。

6. <経営部門>

<目標>

①充足率98%維持を目指し、経営基盤の安定を図る。

- A) 各部署等と共同し、ゲストの疾病予防策を検討して健康維持を図る。
- B) 入所待機者との関わりを増やし状況を把握する。上位3名の面接を常に行い、スムーズな入所を目指す。緊急入所についても率先して行動する。
- C) 総務部と共に経営分析を長期・中期的に行い健全な経営を維持する。
- D) 待機者管理促進の為、月2回会議を実施する。

前年度平均充足率97.9%に対し、今年度は98.2%と、若干向上となった。年度前半看取り対象者増加で、実績は下降するが、後半は入院者が少なく、安定していたことが要因である。詳しい理由は、※1の入退所等内訳表参照。
待機者は、依然約224名(3/31時点)であるが、近年緊急性が減少してきている。

②報酬改定への対応と、新たな加算取得を目指し収入アップを目指す。

- A) 個別機能訓練加算と認知症専門ケア加算の取得を目指す。

認知症専門ケア加算取得のため、今年度も認知症実践リーダー研修に1名参加。個別機能訓練加算の算定を予定していたが、看護職員の補充ができず実行できていない。

③紙おむつ代の削減の継続を図る。

- A) 26年度実績を上回らないよう、チェック体制を継続。

前年度より-1,148,328円削減できた。布パンツ移行や尿量アセスメント等、個別の見直しを行ったことが要因である。

④人財確保及び新規顧客獲得のため、広報活動の推進を図る。

- A) リニューアルしたホームページを更に活用し、情報量の増加及び「大慈園らしさ」をアピールする。
- B) SNS等を活用し、リアルタイムな情報を発信し続ける。
- C) 学校訪問し、人財確保を図る。

毎日SNSへの投稿を行い、大慈厚生事業会の情報を発信し続けた結果、目標値を上回り多くの方々に見てもらえ反響もあった。次年度は、ホームページのリニューアルを予定している。

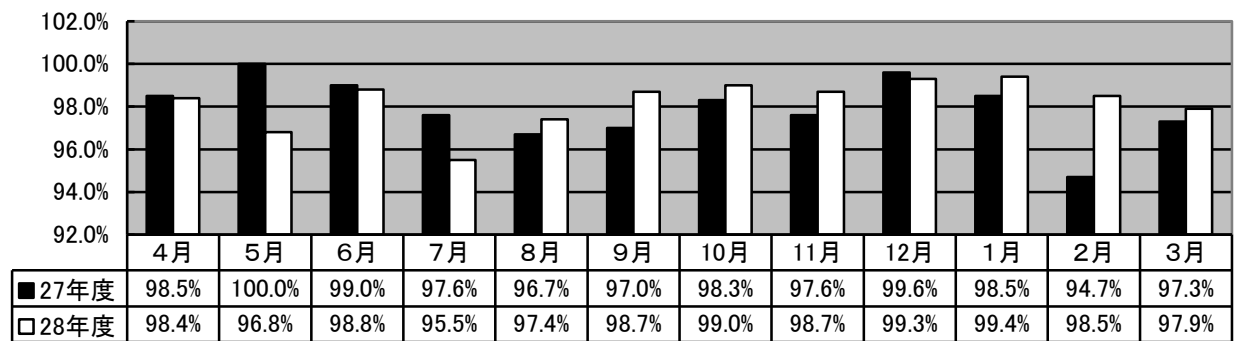
	平均値	目標値	達成率
平均いいね！充足率	85.4%	80.0%	106.7%
いいね！合計数	1,158	900	128.7%
いいね！月平均数	41	30	136.6%

⑤介護福祉士資格取得支援制度の拡充を行う。

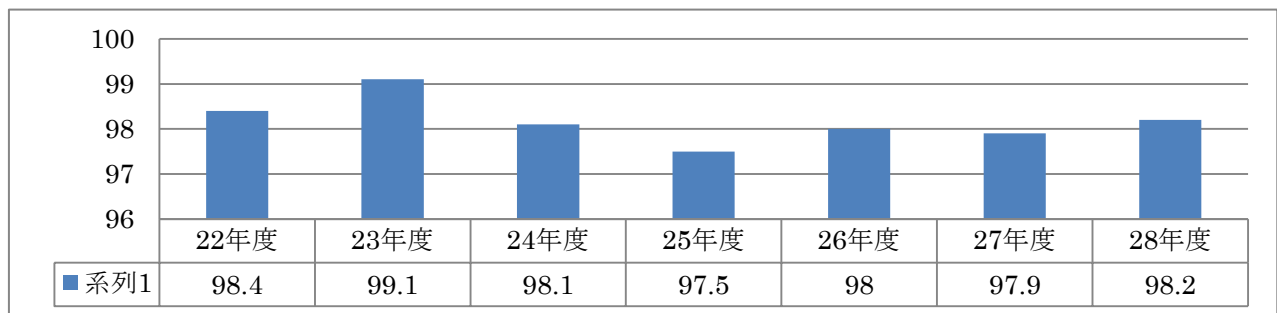
- A) 実務者研修費用全額支給
- B) 登録研修機関の申請・登録

今年度から介護福祉士の試験方法が変更となり、実務者研修の受講が必須となった。当園においてもこれまで独自の資格支援制度を実施してきたこともあり、実務者研修は3名受講した。その内、2名が介護福祉士試験も合格することができた。また、喀痰吸引研修も3名受講している。

●平成28年度月別充足率表



●年度別充足率推移 (%)



●※1 入退所等内訳表 (人)

	入所	退所	入院	退院	死亡	外泊
①28年度	36	2	18	15	32	18
②27年度	31	0	27	15	26	5
③26年度	26	0	39	27	23	5
増減①－②	+5	+2	-9	0	+6	+13

●介護度別年齢別等人数表

平成28年3月31日時点での在籍数

平均滞在期間3.1年(男性3.1年、女性3.2年)

最高滞在期間10.7年(女性)

	平成28年度				平成27年度			
要介護度	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
1	9	2	7	89.4歳	12	3	9	88.0歳
2	9	0	9	89.0歳	10	2	8	87.3歳
3	25	7	18	84.1歳	26	7	19	86.1歳
4	33	8	25	86.8歳	29	6	23	85.4歳
5	22	3	19	87.6歳	27	5	22	87.4歳
合計	98	20	78		104	23	81	
平均介護度		3.5	3.5	3.5		3.3	3.5	3.4
平均年齢		81.9歳	88.0歳	86.7歳		81.9歳	87.2歳	86.1歳
最高年齢		96歳	107歳			98歳	106歳	
最小年齢		58歳	64歳			57歳	60歳	

7. 《理学療法科》

＜年間計画内容＞

ADL低下を防ぐ事を目的に、個別機能訓練を取り入れ、実施する事で現状の機能維持・向上を図る。軽微な生活リハビリを提案・指示（指導）する事で、ゲスト本人が支障を来たさず日常生活が送れる手助けを遂行する。

＜実践目標＞

①現況での日常生活レベルの把握

A) 機能レベルに準じた生活対応の見直し…随時

B) ご家族への状態（機能面・リスク・介助法等）報告…カンファレンス等

②個別機能訓練への取り組み

A) 個別機能訓練計画作成…定期的

B) 現場への生活リハビリの指示・指導…随時

機能レベルの変化時等（退院・年齢的レベル低下等）において、現場職員との連携（報告等）を図る上で、生活対応等の見直し、対応方法の指示・指導等を随時に出来た。そうする事で、過剰介助の除去を図る事にも繋がっていると思われる。今後も最終的に過剰介助がない現場ケアへの手助けをして行きたい。また、ご家族への報告等も、カンファレンス時を利用して伝える事が出来ている。

●業務実績

○物理療法・・・年間219回（27年度359回）

○運動療法・・・年間249回（27年度186回）

8. 《看護部》

＜目標＞

『尊厳ある生活を最期まで園で支援できる看取り体制づくり』

①不安定期に伴い対応可能な医療の提供とご家族も交えたカンファレンスを行う。

②看取りにおけるご家族の不安を軽減できるケアを多職種協働で実践する。

ゲストの状態に関しては、各担当看護職員が申し送りに参加することにより部署内での情報共有や連携強化により早期対応は行え、看取り対象者については、31名看取る事が出来た。昨年同様に、対象者やご家族に直接関わられた機会が多くグリーフケア・グリーフワークの実践ができ悲嘆の軽減につながったと考える。又、看取り導入期時の意向確認についても、看取り発表会に参加されたご家族の理解度は良い傾向であると感じられる。そのことから、導入期の受け入れがスムーズに行えたことは評価することは出来る。

看取り委員会を中心に不安定期者を報告することは定着化してきており、他部署とも共有することができ問題なく看取り導入期へ移行する事も評価できる。

今後の課題として、吉祥園で終末期を迎えられる対象者もある事から看取り導入期への意向確認も必要であり、引き続きご家族への悲嘆軽減や対象者への不安も軽減していける体制づくりを築いていきたい。

●年間業務

月	項目	内容
6・7月	職員定期検診	胸部X線、採血、検尿、検便、心電図、腰椎X線（介護職のみ）
11・12月	ゲスト・全職員	インフルエンザ予防接種
	ゲスト定期検診	胸部X線、採血等
1月	介護職員定期検診	採血

●週間診療表※眼科・耳鼻科等は、外部へ随時受診。

曜日	午前 午後	医師名	診療科目	頻度
月	午前・午後	坪内淳一	内科	毎週
	午前	平山 尚哉	歯科	毎週
火	午前・午後	坪内淳一	内科	毎週
	午後	松尾信二	精神科	毎週
水	午前	真継 猛	整形外科	毎週
	午後	松浦 肇	皮膚科	月 2 回
		平山尚哉	歯科	毎週往診
木	午前	坪内淳一	内科	毎週
	午後			
金	午前	坪内淳一	内科	毎週
	午後		糖尿内科	
土	午前	坪内淳一	内科	毎週
	午後	松尾信二	精神科	

9. 《栄養科》

<目標>

①調理の味と質の安定をはかる（3カ年）

- A) 全厨房スタッフに分かる献立マニュアルを作成する為のシステムを構築する
- B) 写真を取り込んだ切り方・作り方マニュアルの作成

②食事サポートの統一により、スタッフ・ゲストも笑顔の食事を目指す。

- A) 大慈園の食事を、園全体で考える。
- B) 確認しあえる体制を作る。

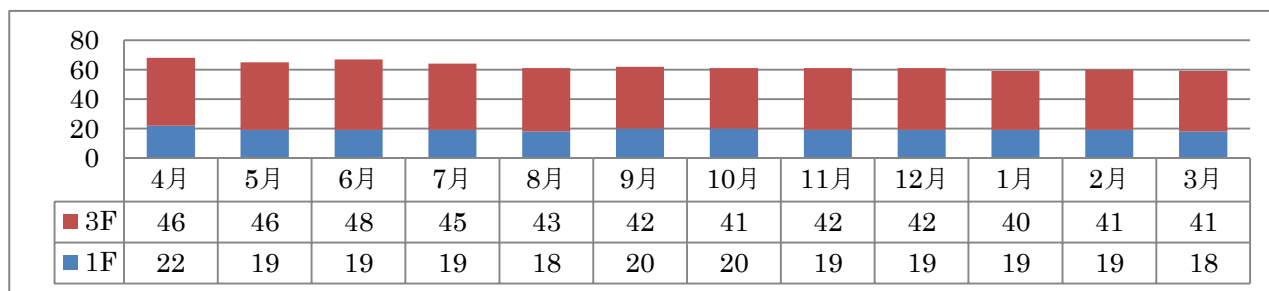
調理の質に個人差がある事から、統一を図るためにマニュアル作成を目標とし、資料収集を行った。資料として料理の写真はあまり撮ることが出来なかったが、検食簿を月毎にまとめて課題を抽出し、課題のある献立については厨房スタッフと話し合い献立改善へ繋げた。栄養士が検食の徹底を行うことで、厨房スタッフと話し合う機会も増え、事前に確認することが多く見受けられるようになり、結果仕上がりのミスが減った。

食事サポートについては、栄養士の気付きが増えたことやケアスタッフが決定した対応について毎月振り返りができる仕組みを作ったことでモニタリングが確実に行え、充実したアセスメントが行えたと考える。

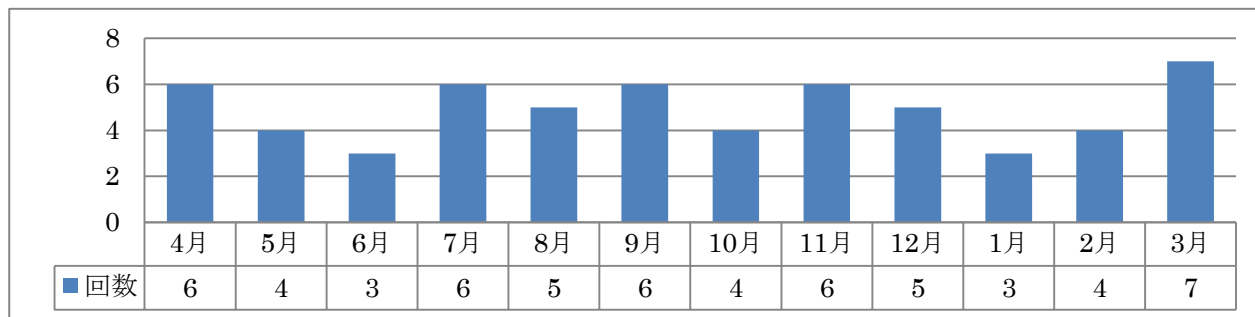
今年度の^{※1}経口維持加算の人数を見ると、前年度平均60.8人と比較すると増加が見られた。ミールラウンドにおいて食事形態の見直しが図られ、状態に合わせた食事ケアが展開できたことが増加に繋がったと考える。しかし、上半期に加算該当者の死亡が多く、新規ゲストは、常食対象者が多かったため、今後減少が予想される。現状では、常食とスルー食の二極化が見られてきているため双方の状態に合わせた食事提供が課題となってくる。

毎月食事行事については継続して行っており、今年度は^{※2}放送でのお知らせを行い、ゲストが行事食を予め把握することで、楽しみにされている様子が見受けられ会話のきっかけに繋がった。また行事の内容を毎月一新することでマンネリ化することなく、ゲストに高揚と充実を感じて頂けているため、今後も新しい行事に挑戦していきたい。

※1 平成28年度 年間平均62.3人



※2 行事放送回数 年間合計59回



<年間行事食>

略語の説明→み (弥勒園)

SS (ショートステイ)

月	年間行事	内容	施設
4月	お花見	園庭にて桜を見ながら、和菓子とお茶を提供。桜餅、草餅、上生菓子、栗饅頭、羊羹の中から2つ程選んでいただいた。	み・SS
	1Fお花見弁当	松花堂弁当に花形のしそご飯に錦糸卵をのせ、桜の汐漬けをのせ春らしくし、エビのしんじょうあげや春キャベツの炒め物、イチゴ、羊羹を盛り付けして提供。	み・SS
	家族食事会	ゲストと桜餅を手作りした。	み
	3F寿司パーティー	生物提供が難しい中でどこまで寿司を出せるか試行錯誤の試み。茶碗蒸し、赤だし、玉子、稲荷寿司、焼き茄子、ウラの梅肉和え乗せ、たらこ乗せ、常食・ソフト食はエビ、スルー食はカニカマを提供。	み
5月	1F焼き肉バイキング	園庭にて焼き肉バイキング。ホットプレートで温めた熱々の焼き肉(牛は焼き肉のたれ、豚は塩だれ)、チヂミ、じゃがいも餅やウインナー、おにぎりを提供。	み・SS
	家族食事会	ゲストとホットケーキを手作り。手際よく上手であり、ご本人も大変楽しまれていた。	み
	3F土鍋ご飯バイキング	土鍋で熱々ご飯を4種提供。(ツナ柚子きのこ、鮭、炊き込み、梅ひじき)天ぷらも提供し、いつも1尾のエビが2尾でゲストは大満足されていた。	み
6月	洋食バイキング	ワンプレートにオムライスと揚げ物(エビフライ、バナナ、白身魚フライ)、ポテトサラダを盛り付け提供。	み・SS
	家族食事会	じゃが芋餅をゲストと手作り。ゲストは丸めるのお上手で、普段より口数が多く楽しそうにされていた。	み
	中華バイキング	ナムル、炒飯、餃子、エビチリ、から揚げ、麻婆豆腐を大皿で提供。	み

7月	1 F 素麺・おにぎりバイキング	そうめん3種(普通・オリーブ・ごま)、おにぎり3種(エビ・玉子・オクラ)を提供。	み・SS
	家族食事会	鯛を塩窯にして提供。	み
	3 F かき氷	3種のかき氷(イチゴ、レモン、メロン)にヨナナスを提供。	み
	3 F おやつ作り	ゲストにホットケーキ作りをお手伝いして頂く。ミックスジュースは厨房より作ったものを提供。	み
	良い肉の日	グラム1, 000円程のお肉をすき焼きにして提供。	み・SS
8月	1 F お好み焼き・焼きそばバイキング	焼きそばとお好み焼き3種(海鮮、キムチ、牛すじ)を提供。	み・SS
	3 F 夏祭り たこ焼き	たこ焼きをゲストの前で焼いて提供。	み
	食事会 ころてん	ゲストに寒天をころてん付きに入れてご自身で押してころてんを作って頂いた。	み
9月	1 F かき氷	3種のかき氷(イチゴ、レモン、メロン)にヨナナスやポッキー、あんこを添えて提供。	み・SS
	1 F パンバイキング	卵ロール、ウインナーロール、菓子パン3種(あんぱん、クリームパン、お芋パン)、グラタンとエビフライも一緒に机に並べてビュッフェ形式で提供。	み・SS
	食事会 ホットケーキ	ゲストとホットケーキ作りを行った。	み
	3 F 和菓子バイキング	おはぎ2種、田舎饅頭、黒糖饅頭、栗饅頭を提供。	み
10月	1 F 秋刀魚バイキング	定食風にして提供。	み・SS
	家族食事会	ゲストと手作りおやつ(草餅)を実施。	み
	3 F 天ぷらバイキング	ゲストの目の前で天ぷらを揚げて、揚げたてを提供。	み
11月	1 F 揚げ物バイキング	ゲストの前で揚げて提供。	み・SS
	3 F おでんバイキング	土鍋で熱々おでんを各テーブルに提供。	み
	家族食事会	鯛の塩釜を実施し、提供した。	み
	おしるこ	かぼちやのペーストを練り込んで豆腐と白玉粉で作った白玉団子をおしるこにして提供。	み・SS
12月	さつま芋団子(みたらし風)	さつま芋ペーストを使用して軟らかいお団子を作り、上から甘辛いタレをかけて提供。	み・SS
	家族食事会	ゲストと手作りホットケーキ作りを実施。	み
	3 F クリスマス会	から揚げ、卵サンド、菓子パン2種、カレー春巻き、エビフライ、プチプリン、プチシュークリームを詰めて、シチューと彩サラダを個人盛で提供。	み
	1 F クリスマス会	ポテトサラダで作ったツリー、ミートボールとうずら卵をピックにさしたのや春巻き、チキンナゲット、エビフライを詰めて、個人盛りにポットパイやデザート4種を提供。	み・SS
	おしるこ	おしるこ提供。大変喜ばれていた。	み・SS
1月	お正月	御節料理とお屠蘇を提供。	み・SS

	3 F お茶会	桜餅と草餅作りをゲスト様にお手伝いしていただいた。	み
	家族食事会	ゲスト様に草餅作りをお手伝いしていただいた。	み
	おしるこ	豆腐入りの白玉と入れておしるこを提供。	み・SS
2月	1 F 鍋バイキング	食事形態別にちゃんこ鍋を2種類用意。	み・SS
	バレンタイン	チョコプリンを提供。	み・SS
	3 F 焼きそばお好み焼きバイキング	お好み焼き3種(海鮮、牛すじ、豚)と焼きそばを提供。	み
	家族食事会	雛餅作りをゲスト様にお手伝いしていただいた。	み
3月	1 F おでんバイキング	屋台風のおでん屋さんのようにして提供。	み・SS
	3 F 鍋バイキング	食事形態別にちゃんこ鍋を2種類用意。	み
	家族食事会	ゲスト様にどら焼き作りをお手伝いいただいた。	み

10.《事務部》

<目標>

①情報共有方法のシステム化

- A) 総務部との情報共有を確立。
- B) 担当部署を変更し、部署との共有方法を見直し。
- C) 非定形業務において、グーグルカレンダーを活用し、事前準備・期日設定・進捗状況の確認を行う。

②業務効率アップと丁寧な対応

- A) ゲスト・ご家族の対応を担当者が対応し、不在時のフォロー体制を確立する。
- B) 作業効率を向上させる為、内勤体制を整える。
- C) ドキドキ・事故報告書よりそれぞれのミスポイントを見える化する。

年間スケジュールを作成することで、業務の期日を明確にすることが出来、提出物の準備や連絡調整などを総務や部署内で共有できた。

フリーの日をつくることで、内勤体制を整えようとしたが、対応が困難になる状況になり断念した。また、ミスポイントを洗い出し原因の検討をした。次年度は、その課題について取り組んでいきたい。

11.《行事等の実施内容・反省点》

<毎月定例行事> 1・3 F 共通

行事名	反省等
家族食事会	誕生月のゲストとご家族をお招きし、食事会を毎月開催している。 配膳に時間が掛かってしまう等の問題点はあったが、その都度栄養士と話し合いを持ちながら、改善していく事が出来た。ご家族との食事は、ゲストの笑顔も多く見られ、ご家族が来られていないゲストは、職員が積極的に声を掛けたりしながら進めることが出来た。
くもん式学習療法	前年度より引き続き、業務内で学習療法を行う事が出来ている。週4回以上は実施出来ており、コミュニケーションを目的として、実施時の様子や会話を記録として残す事も継続して行うことが出来た。また、ご家族が会話の内容を読み、「こんな事も話したんですね。」と驚かれながらも喜んでおられた事もあった。

園芸療法	園芸療法士より1回/月の指導を仰ぎながら、職員と参加ゲストで植物を育て、下記のように季節に応じた製作作業を実施している。 毎月、園芸療法終了後、作業内容や進行の反省をしながら、スムーズに実施する事が出来た。季節に応じた作品を作成したり、ゲスト同士も楽しそうに会話をされている。	
	4月	花の寄せ植え
	5月	花の寄せ植えと手浴
	6月	フラワーアレンジメントの花籠
	7月	オリジナルうちわ作り
	8月	花の寄せ植え
	9月	花の寄せ植えとハーブの匂い袋作り
	10月	メモ挟み作り
	11月	花苗と球根の寄せ植え
	12月	みんなで作るクリスマスリース
	1月	花のお弁当箱
	2月	花と種で作るバレンタインチョコ
	3月	花の寄せ植えと手浴
音楽療法	毎月4回音楽療法士の講師と職員で実施している。 季節の歌、馴染みでセッションを実施したことにより、音楽を通して楽しい穏やかな交流の場の提供が出来たと思われる。毎回、固定曲を使用することは、利用者の記憶力の維持・発声・発語への促進につながり、一人ずつ発声をする事で、自己表現の拡大と自信の回復を促すことができた。歌を通して周囲への関心が広がり、充実感・安心感を得て協調性につながったと思われる。特に身体活動と楽器活動は、機能低下予防に大きな効果があると考えられる。	

<年間行事>

● プラム棟

日付	行事名	部署
4/1	看取りゲスト外出 (妙法寺)	ご家族に思い出の場所をお聞きし、ご家族も一緒に以前住んでおられた妙法寺へ行った。親しくしておられた隣人にも会え、ご本人も、何度も顔を見ては、笑顔を見せられたり何か話をされたりと、本当にうれしそうな表情を見せられた。ご家族にも「本当に良かったです。大慈園に感謝です。」とのお言葉もいただきました。
4/3・5	お花見ドライブ	SSゲストを対象に、明石まで桜を見に行く。普段、外出する機会がありませんので、皆さん大変喜んで下さった。満開の桜のトンネルをくぐると「すごくきれいなね。こんなところに連れてきてもらって嬉しいわ。」等とゲスト同士話されており、ドライブ中の会話も弾んでいた。
4/4	園庭でお茶会	午前中、雨が降っていたが、午後より雨も止み風があり少し寒かったが、園庭の桜の木の下でお茶会を行う事が出来た。桜花を見ながら季節を感じて頂き、温かいお茶とお饅頭を召し上がって頂いた。
5/8	母の日会	SSゲスト16名、プラムゲスト27名、ご家族36名が参加され、約1時間程園庭でお茶会を実施した。ご家族にはメッセージカードを書いて頂き家族写真を撮り喜んで頂いた。職員に、日々の様子などを聞けたり、家族同士でお話が出来て良かったとの声が聞けた。

5/12	焼肉バイキング	SS・プラムゲスト合同で園庭で実施。焼肉パーティーは初の試みであったが、大成功でした。バイキング形式で、ゲストにお皿を持って頂き食べたい物を取りに行き、召し上がっていただけた。
6/9	洋食バイキング	SS・プラムゲスト合同で実施。オムライスとエビフライなどの揚げ物をワンプレートの盛り付け、洋食屋さん風に提供した。エビフライは皆さん大好きで今回は2尾づつの他、おかわりも準備していたので、満足されているゲストも多くおられた。
6/13	看取りゲスト外出(自宅)	看取りの男性ゲスト宅へ職員2名と一緒にいき、奥様と娘様と一緒に過ごしていただいた。傾眠が強く、あまり目を開けられる事はなかったが、園でおられる時の表情より、穏やかな表情が見られたとのことであった。飼っていた猫も傍に来て、少しの時間だったが、ご家族にも大変喜んで頂け良かったと思う。
6/19	父の日会	プラム棟男性ゲスト7名 SS 男性ゲスト2名でプラム棟内で実施した。おつまみとノンアルコールビールで職員や女性ゲストを交え、父の日のお祝いをした。皆さん、ノンアルコールビールをおかわりし、喜んでいただけた。
7/9・16	外出行事・新開地劇場	両日ともに事故なく観劇を楽しんで頂く事が出来た。4時間程の長時間であったが、歌にお芝居を熱心に観られ「良かったわ。」「男前やべっぴんさんがいっぱい見れて嬉しい。」と喜んでいただけた。
7/14	素麺バイキング	プラム棟食堂で実施。素麺と4種のオニギリを握りずし風にして提供した。素麺とエビ天もあり、おかわりも多くされており好評であった。夏を感じていただけたバイキングとなった。
8/6	納涼祭	SS 2名 プラム1名不参加であったが、その他のゲストで実施。手持ち花火と打ち上げ花火を準備し、事故なく行う事が出来た。打ち上げ花火は歓声もあがり、大変喜んで頂けた。花火を見ながら、アイスキャンディも召し上がっていただき、職員ゲスト共に夏を感じる時間が持てた。
8/11	お好み焼きバイキング	ショート、プラム合同で実施。3種類のお好み焼きと焼きそばをホットプレートで温めて、アツアツを提供した。今回は、ソースを塗ってもらう事もできた。手掴みで食べるゲストも多くおられた。
9/2・5・13	外出行事・ホテルのランチ	シェフが目の前で鉄板焼き(野菜やお肉)を焼いて下さり、コース料理で豪華なお料理に、普段野菜嫌いなゲストも、箸が進んでおられた。男性ゲストからは「こんなところでご馳走食べれて幸せやな。」と嬉しそうな表情を見せて喜んで下さった。
9/8	パンバイキング	ホットドックや卵サンド、アンパンなど5種類のパンと副食はエビフライとグラタンをテーブルに並べ、ゲストに取りに来ていただいた。飲み物も3種類準備し、好きな物を選択形式でパンバイキングを実施。皆さん、洋食はお好きなようで何度もおかわりをしに来られるゲストもあり、今回も大成功であった。
10/8	ニコニコ保育園運動会	ゲスト8名参加にてにこにこ保育園の運動会を見に行ってきた。ポンポンを持ち立ち上がり、かけっこを熱心に応援しておられました。1時間程でしたが、皆さん「可愛いね。」と言われながら、優しい表情で園児を見ておられ、とてもよい計画だった。
10/13	さんまバイキング	恒例の秋刀魚を使い、さんま定食をイメージし実施。秋刀魚とカレーの2種類しかなかったからか、定食風にした事でお腹がいっぱいになったのか、おかわりをあまりする方がいなかった。秋を感じていただけたかとは思いますが、もう少し工夫をすれば良かったと感じる。

11/3	カインズにペットを見に行こう	ゲスト3名、職員3名で計画通り実施。カインズホームでウサギなどの小動物や犬や猫を見て、「可愛いね。」と喜んで下さった。コメダ珈琲では、ランチを召し上がられ久しぶりの外出に「楽しかったね。」との返答もいただいた。
11/10	串揚げバイキング	串揚げ9種をチーフに目の前で揚げてもらい、揚げたての串揚げを沢山召し上がって頂く事が出来た。ソースは3種類（うめ・ポン酢・とんかつソース）を用意し、好きなソースをつけたり、揚げている目の前に行き、立ち食いをされるゲストもおられた。
11/16	西神中央お買い物	ゲスト3名、職員3名でプレンティ内で買い物を楽しんだ。駄菓子屋があり、好きな駄菓子を選ばれたり、靴下やコップなどそれぞれに欲しい物を選び購入され喜んでいただけた。昼食はお好み焼き屋がなかったが、和食が食べたいと話され、海鮮どんぶりを皆さん完食された。
11/20	看取りゲスト（淡路島の自宅へ帰る）	看取り対象ゲストの外出企画。ご家族より「淡路に連れて行っても大丈夫ですか？」と心配されていたが、当日体調もよくご家族、職員同行にて実施する事が出来た。自宅では、ご主人の遺影を眺められたり、プリンを自力で召し上がるなど、普段、園では傾眠されている事が多かったが、同行した職員が驚くほどの表情の変化が見られた。ご家族も大変喜ばれ、良かったと思う。
12/23	クリスマスパーティー	バスケットに入った洋食や握り寿司を召し上がって頂き、とても喜んでいただけた。2部ではクリスマスパーティーでトナカイやサンタの着ぐるみを着た職員が登場し、ハンドベルで「きよしこの夜」を演奏し、おやつやノンアルコールビール、プチケーキを召し上がっていただいた。ショート、プラム合同で賑やかなクリスマス会になった。
1/1	おせちバイキング	松花堂弁当（おせちの料理）と副施設長のお屠蘇でお正月を祝うことが出来た。いつものバイキングとは違い、バタバタする事無くゆっくりとした雰囲気です食事をとっていただけた。
1/2	諏訪神社初詣	プラム・SSゲスト計51名。5日間で初詣に行き、お参りとおみくじを引いてもらう予定だったが、感染性胃腸炎で2名の職員が出勤停止となり、人員不足の為、2日のみ予定通り行う事が出来たが、その他は中止となり残念であった。来年は、人員や日程の調整を念入りにし、ゲスト全員参加出来る様に初詣の計画を立てたいと思う。
2/3	節分	鬼に扮した職員2名が登場すると、「鬼が来た〜。」とても喜ばれ、玉を投げ楽しんで頂けた。反省点としては、役割分担がしっかりできていなかった為、玉投げ（豆まき）をするのに、間が出来てしまったので、事前に役割分担をしっかりとし、職員の動きがスムーズにいくように来年度は計画したい。
2/9	ちゃんこ鍋バイキング	ちゃんこ鍋を各テーブルに置いて、家庭的な雰囲気です鍋を召し上がって頂くけた。鍋のメの雑炊は、とても好評であった。毎月のバイキングを楽しみにされ、喜んでいただけた。
3/3	ひな祭り	男性ゲストがお内裏様に扮し、女性ゲストはお雛様になって頂き、写真を撮影した。着物を羽織り、冠を頭につけると、喜んで下さり皆さん、とてもいい顔であった。
3/9	おでんバイキング	昨年同様、屋台風にし、カウンターを用意しノンアルコールビールでおでんを召し上がっていただけた。男性ゲストやお酒が好きな女性ゲストがとても喜んで下さった。だが、カウンターに出来ないゲストは、屋台の雰囲気を感じていただけなかったなので、レイアウトなども工夫していく事が課題となった。

● 3 F

日付	行事名	内容
4 / 4	行事部門 園庭花見	行事部門を中心に園庭花見行事を計画実行。桜の開花時期と合い、企画通りに実行できた。
5 / 8	行事部門 母の日お祝い	女性ゲスト51名に、カーネーションをプレゼントし、写真撮影と感謝の言葉を伝えた。
5 / 16	個別企画：園外買い物	ゲストのニーズをくみ取り、西神南へお連れする企画を立案。生活にあたっての必要衣類や物品の購入を行った。
5 / 19	個別企画：赤ちゃん先生	赤ちゃんや人形・子供が大好きなゲスト5名を赤ちゃん先生の行事にお連れした。表情和らぎ、企画通りの終了となった。
5 / 19	行事部門 土鍋ご飯	行事部門×栄養課として3種類の土鍋ご飯を提供した。毎年恒例となっている食事行事であり、企画通りに終了した。
5 / 28	個別企画：一時帰宅	ゲスト・ご家族からの要望を聞き取り、長年過ごされていた自宅と店舗（タローパン）にお連れした。普段みられない表情をたくさんみられ、企画以上の効果が得れた。
5 / 29	個別企画：須磨水族園	ゲスト・ご家族からの要望を聞き取り神戸どうぶつ王国の企画であったが、体調及び天候を考え、須磨水族園にゲスト2名をお連れする。ご家族も大勢来られ、共に過ごす時間を提供できた。
6 / 1	個別企画：アグネスがみたい	「外の気分転換がしたい、アグネスがみたい」との思いを聞き取り、ゲスト2名の企画行事を計画。周辺症状みられる方であったが、問題なく、ろうごの日のつどいに参加された。
6 / 6	個別企画：一時帰宅	ご家族からの要望を聞き取り、長年過ごされていたご自宅への一時帰宅計画した。ご家族が涙される場面もみられ、また、ご本人も笑顔がみられ、家族愛を感じられる個別企画を提供できた。
6 / 9	個別企画：カンデカンデ	「1度でいいからカンデカンデに2人で行きたい」との思いを聞き取り、企画行事を計画。「長年の夢が叶った」と大変喜ばれた。
6 / 17	個別企画：南風	「粉物が好き、お好み焼きが食べたい」との思いを聞き取り、ゲスト2名の個別企画を計画。大変満足され、企画通り終了。
6 / 19	行事部門 父の日	男性ゲスト15名に対し父の日行事を企画。ノンアルコールビールやおつまみ・向日葵をプレゼントする。
6 / 24	個別企画：餃子の王将	ゲスト・ご家族からの要望を聞き取り、個別企画を計画。『餃子の王将にお世話になっている職員をつれていきたい。』との思いがあり、担当者と共に、王将で餃子を食べられた。
6 / 24	個別企画：園外買い物	西神南駅周辺でのご家族と過ごす時間を調整・企画し送迎等のサービスを実行。
6 / 28	行事部門 中華バイキング	行事部門×栄養課として毎年恒例である食事行事を開催。企画通りの大変満足に終了した。
7 / 4	個別企画：神戸どうぶつ王国	ご家族の思いからの個別の企画行事を立案。パフォーマンスショーが開催されており、楽しまれた様子。同伴したご家族もすごく喜ばれていたのが印象的であった。
7 / 7	願い事叶えよう～七夕行事～	短冊にご自身願い事を書いて頂いた。そしてその願い事（希望・要望）を参考とし、個別の企画行事や全体行事を開催したい。

7/8	個別企画：春陽軒・湊川神社	以前、ご本人が働かれていたこともあり、希望にて個別企画を立案。ご家族付き添いにて春陽軒へ。豚まんを食された後、湊川神社へ移動。楠公さんには小さい頃に良くきたとエピソード話が聞けた。
7/9	個別企画：東京で結婚式	ご家族・ご本人の思いからスタートした企画。疎遠であった長女の結婚式に父親と参列が決定。その道中・宿泊含む全てのサポートを全面的に付き添った職員が行い、問題なく遂行した。
7/12	個別企画：おいしい和食が食べたい	ご本人の何気ない発言や思いから、ニーズをくみ取り、企画行事を立案。2名の方を和食のさとへお連れし、好みのものを注文し食される。
7/14	個別企画：神戸中央市場	ご本人の思いから企画行事を立案。中央市場付近へお連れする。以前近くに住まわれていたゲストは懐かしさを感じられていた。
7/21	個別企画：須磨寺	ご本人の発言、ご家族の思いから個別の企画行事を立案。以前、須磨寺へは行かれていたということで、懐かしさや雰囲気は感じられたのではないかと察する。
7/28	手作り喫茶	ホットケーキ&ミックスジュースを開催。企画通り的大変満足に終了した。
8/18	夏祭り&花火大会	行事部門が主となり、部署行事を開催。屋台や遊び場を提供し、第2部では夕食後に園庭での花火大会を開催した。
9/21	和菓子バイング	行事部門×栄養課として食事行事を開催。企画通り的大変満足に終了した。
9/27	個別企画：西念寺お墓まいり	ご家族の思いから企画を立案。ご家族付き添いの元、ご主人が供養されている東西念寺へお連れする。ご家族も付き添われ、企画通り終了した。
10/4	元宝塚歌劇団を観に行こう	デイルームにて約50分にわたり歌・ダンスを披露される。過去に劇場に観に行ったことがある、また観れた等、嬉しい言葉がたくさん聞かれた。
10/13	個別企画：和食のさとへ昼御飯	和食のさとへお連れする。事前に和食が好きとの情報の聞き取りを行い、個別の企画行事となった。日替わり定食を全量召し上がられ、とても喜ばれていた。
10/14	個別企画：自宅へ帰りたい	ご家族・ご本人の希望にて企画を立案。事前に間取り・ルート確認、又はベツトレンタル等の調整を行い、数年ぶりにご自宅で1晩を過ごされた。
10/18	個別企画：三浦信夫展	以前入所されていた、ゲストのご家族が個展を開くことをお聞きする。その為、事前に絵が好きな方を募り、3名のゲストを明石文化ホールの絵画展へお連れする。
10/19	個別企画：なでしこの湯	生活におけるニーズから温泉企画を立案し、なでしこの湯にて男性職員と共に汗を流される。後、昼食を食べられ、とても満足され帰園される。
10/20	食事行事：天ぷらバイキング	行事部門×栄養課として毎年恒例である食事行事を開催。ゲストよりとても人気である天ぷらをバイキング形式にした食事行事。恒例行事となっているが、とても大好評で喜ばれていた。
10/23	個別企画：須磨水族園	ご家族の思いから企画を立案。ゲスト2名と付き添いのご家族への日程調整を行い、須磨水族園へ外出へ行かれる。気分転換となり、とても楽しまれた様子であった。

10/23	個別企画：自宅へ帰りたい	ご家族の思いから企画を立案。数年ぶりにご自宅での一泊と誕生日会を開催された。
11/8	個別企画：こうべ動物王国	企画行事を立案し、こうべ動物王国へ2名のゲストをお連れする。どうぶつと触れ合い、見るもの、触るものすべてにおいて、興味深く楽しめる様子が見られる。
11/11	個別企画：太山寺・紅葉	ゲスト2名を大山寺へお連れし紅葉を楽しまれる。天候や気温も良く紅葉見物であった為、参加されたゲストも笑顔がみられた。
11/14	個別企画：ほうらく堂	ご家族付き添いにより、ゲスト2名をほうらく堂（和菓子屋）にお連れした。和菓子を食べられご家族からもこのような機会をまた作って欲しいとのご要望をいただいた。
11/15	個別企画：和食のさと	ゲスト2名を和食のさとへお連れする。事前に和食が好きとの情報の聞き取りを行い、個別の企画行事となった。
11/16	個別企画：西神中央でお好み焼き	1Fの奥様と共に西神中央への買い物とお好み焼き屋での昼食に出かけられた。夫婦揃ってゆっくりとした時間を過ごされた。
11/17	食事行事：秋の恒例 おでん祭り	行事部門×栄養課として毎年恒例である食事行事を開催。大好評に終え、企画通りに終了した。
12/10	個別企画：魚の棚に行こう	ご家族の希望をくみ取り、外出行事を企画。娘様と魚の棚界限を散歩・お茶をされ、ゆっくりとした時間を過ごされた。
12/20	フロア行事：クリスマス会	1年を締める大掛かりなクリスマス会を開催した。フルート演奏や4チームからの出し物（マジック・歌・踊り・早食い）を見ていただき、職員・ゲスト双方が楽しみイベントとなった。
1月	個別企画：諏訪神社で初詣ツアー	上旬、6日間に分けて、合計36名の方を諏訪神社へお連れした。季節的な寒さはあったが、参加した全員が喜ばれていた。又、ご家族にも協力頂き、ご一緒していただいた。
1/7	個別企画：昼食に一品追加して大好物を食べよう	ご本人が好きな物をご家族より聞き取りを行った上、買い物代行を行い、お刺身の提供を行った。感想の問いに答えられるゲストではないが、ご家族の要望を聞き取る形で企画を実行した。
1/8	個別企画：昼御飯を食べにいこう	ゲスト2名を和食のさとへお連れした。ご本人よりお肉が食べたいとの思い・要望から企画となったが、とても満足された様子であった。
1/19	食事行事：新春お茶会	フロア内における食事行事の一環として、抹茶をたて提供した。『楽しい・美味しい』と好評の言葉を頂戴した。
2/16	食事行事：粉もの祭り	行事部門×栄養課として食事行事を開催。企画通り的大変満足に終了した。
3/9	個別企画：如意寺へ散歩に行こう。	経管栄養対象者で寝たきりの方2名を如意寺へお連れした。五感に刺激があり、いつもと違った雰囲気を楽しんでいただけたのではないかと考える。
3/14	個別企画：チェリッシュでご飯を食べよう。	ご家族と共に看取りケア対象者の方をチェリッシュにお連れし、お食事を提供した。ご家族ともにとても満足されていた。

3/16	食事行事：ちゃんこなべ	行事部門×栄養課として食事行事を開催。定例行事ではあったが、企画通りの大変満足に終了した。
3/17	個別企画：喫茶店へいこう。	地元の喫茶店へゲスト2名をお連れする。又、ご家族にも協力して頂き、ゆっくりと過ごされる機会をもっていたいた。
3/17	個別企画：一時帰宅	不安定期にあるゲストのご家族からの強い要望もあり、お連れする。帰宅後、普段聞かれない内容（過去の話）がたくさん聞かれた。

12. 《職員会議・OFF-JT》

頻度	会議名				
月1回	看取り・褥瘡委員会	事故再発防止委員会	サービス向上委員会	感染症防止対策委員会	事業戦略推進委員会
	369会議	主任会議	行事委員会	部門会議	給食委員会
	マナーアップ委員会	全体会議 (1F・3F)	非常災害時対策委員会	デイ検討委員会	正副施設長会議
	人事委員会	研修委員会	予算委員会	広報委員会	
	行事会議	医療的ケア推進委員会	労働衛生委員会	社会貢献委員会	
随時	ケアカンファレンス		人事検討委員会		

日付	研修会内容	参加人数
4/27	図上訓練	32名
5/25	学習療法、苦情対応事例	29名
6/26	看取り介護発表会（ご家族向け）	45名
6/28	看取り介護事例発表、モチベーションUP	44名
7/27	危険予知訓練、職場の感染対策	34名
8/31	熊本応援報告、BCP・マニュアル	32名
9/14・21・28	虐待防止研修	全職員
10/28	吸引実技	29名
11/30	D-1グランプリ	36名
12/21	健診結果と対策、腰痛予防の介助法	33名
1/25	心肺蘇生	21名
2/22	介護技術向上の取り組み、疥癬マニュアル、嘔吐処理実践	24名
3/22	昇級・昇格者決意発表、看取りDVD、手洗い	29名

13. 《会議等の実施内容及び反省点》

①ケアカンファレンス（原則毎週水曜開催）

→ご家族・担当者がより良いサービス提供する為に開催。その際現状報告と前回会議後からの経過等も報告した。又、状態変化があれば、ミニカンファレンスを適時開催している。

②人事評価検討会議（年4回程度）

→人事評価の検討会議。新制度熟成に焦点をあて、目標管理制度の習熟度を向上させるよう図った。しかし、事業計画から個人目標にうまく落とせない管理者もあり、次年度への課題として残った。

③事故再発防止対策委員会（毎月第2水曜日）

→今年度の目標にも掲げた、職員の対応ミスによる事故発生率0%の達成は出来なかったが、状態変化に伴った対応方法の統一は、前年度よりも図れてきており、良い傾向にある。介護技術力向上を図る為の座談会等を実施する事で、対策・対応策に従ったケアをする上で、類似事故の件数減少にも繋がって来ている様に思える。

今年度はKYT法導入3年目を迎え、定着を図ってきた。比較的、全部署職員の意識に浸透してきた様に思われる。現場でも声が上がる様になってきたと、各委員から報告件数が増えている。その中で、メソッドへの移行を考えていく中で、なかなかスムーズに行かず、従来型のKYT法で通した。次年度に、座談会等を用いて、委員会独自にメソッドへの移行作業に取り組んで行きたい。

④感染症防止対策委員会（毎月第3水曜日開催）

→インフルエンザに関しては、3月末から蔓延期になる状況となり残念な結果となってしまった。ノロウイルスに関しては、今年度の目標である園内での感染症発症0%を達成することが出来て良かったが、2・3Fで疥癬が発症してしまった。幸いにも早期対応することで拡大することは無かったが、疥癬マニュアルが古く、今回の件で改善する必要性を感じ、再検討した。介護職員と協働する事で無事完成することができ、OFF-JTで発表することで周知できたことは評価できる。今年度の委員会活動については、以前に比べ職員の意識向上が出来てきているように見受けられるが、各部署の感染委員による発信力が少なかったように感じる。次年度は、各部署の感染委員を中心に部署への発信（働きかけ）を強化して貰いたい、職員の意識向上に反映させられるような委員会活動を遂行していきたい。

⑤サービス向上委員会（毎月第3水曜日開催）

→5S活動は継続しているが、「ルールの定着」、「動線確保」といった部分にまでは影響していない結果となっている。巡回日を設ける事で、その場面に限っては意識的に整理整頓を行う事は出来ているが、「ルール」まで至っているとは考えにく状況であった。

また虐待の疑い（不適切な対応）について、発生時に対応する事は出来ているように感じるが、予防的な活動が弱い。潜在的な問題について、積極的に吸い上げ、共有、解決できるような機関・場面が必要と考える。

⑥非常災害時対策委員会（毎月第4水曜日開催）

→今年度は、各部署でBCP作成を行い、OFF-JTで初めて図上訓練を行った。参加職員は興味深く災害時の行動確認を行い、マニュアルの見直しができる貴重な意見が多く挙がっていた。また、熊本災害で、応援にいった職員からの情報を、当園のマニュアルにいかす取り組みも検討している。

⑦看取り・褥瘡委員会（毎月第4月曜日開催）

→「安心して死ねる場所」を合言葉に、園で自然な形で最期を望まれるゲストに、より良い最期を迎えていただく為の援助、環境整備等の検討を行っている。昨年度に引き続き、看取り勉強会を開催することで、看取り介護の認知度向上を図っている。

看取り不安定期の情報共有や看取り導入時期に関しては、システムが定着してきており、適切な時期に看取りのカンファレンスを開催することができている。また、ご家族に十分な時間をもってお別れしていただく事で、悔いのない最期を迎えることができていることが増えているように思われる。担当職員からのアセスメント力としては弱い部分もあるが、適切な時期に看取り委員の方に挙がってきており、特に問題はない。次の課題としては看取り期に

において整容面などの基本的なケアの部分を見直すことで、さらに弥勒園での看取りケアを底上げしていきたい。

⑧給食委員会（毎月第1水曜日開催）

→「ウキウキ・ワクワク・ドキドキ」といった気持ちの高揚感を持ってもらうために、ポスターを作成するなど宣伝方法を工夫している。ポスターを見たゲストからは食事行事を楽しみにする声も聞かれており、高揚感を持ってもらえている。職員自身もポスターを作成することで意識付けになり、食事行事を周知徹底できるようになってきている。ゲストの個人的な要望を聞き出すことはできていないため、次年度のリクエストメニュー実施により要望を聞けるようにしていきたい。

⑨マナーアップ委員会（毎月第4木曜日開催）

→D-1グランプリのゴミ分別に力を入れてしまい、他の事が疎かになった様に思う。また、言葉遣いでは準備不足で委員会内のみで各部署に浸透するまでには至らなかった。今後、しっかり準備を行い、D-1同様に力を入れて各部署まで内容等浸透出来る様に上司等に相談していきたい。また、ポスターは比較的、職員に見てもらいやすいので今後も継続してポスターを作成していきたい。

⑩医療的ケア委員会（毎月1回開催）

→昨年度作成された手順書に関しては、現在十分に介護現場において活用されているとは言い難い。しかしながら、膀胱留置カテーテルの手順書も完成し、現在ストマケアについても着手しようとしているため来年度は完成させたい。

また、経管栄養については実地研修が当施設でスタートし、県からの認定が下りた介護職員が実際の経管栄養を行い始めている。現在は看護職員と介護職員が協働して行っているが、まだ認定を受けた職員の人数が少なく、介護職員が行う事は回数的にも少ない。今後研修を受けた職員が増えることにより、経管栄養は介護職員がメインで行う事となっていくと思われる。

特養の入居者の基準が要介護3以上となったことにより、特養が社会的入院の受け皿的な存在となる可能性が高い。経管栄養を介護業務に含めた介護業務分担表の見直しに着手するとともに介護職のスキルアップを行い、これからの社会の動きに柔軟に対応できるような取り組みを行っていききたいと思う。また介護職員のスキルアップが望まれ任されることが多くなることで、モチベーションのアップにもつながると思われる。医療的ケアを委員に任せるだけでなく、どのようにしたら職員が自分自身の課題として意識してもらえるのかを検討し委員会運営の課題としたい。

⑪学習療法推進会議（毎月1回）

→管理方法について、委員会で説明した上で各自から質問も受け付け直接の指導もしている。アドバイザーの訪問では、それぞれの部署での実施方法の問題点やゲストへの個別対応の方法などのアドバイスを受けることが出来、各部署でのスムーズな実施に繋がっていると思われる。

⑫事業戦略推進委員会（毎月1回開催）

→老人部門の全事業所が集まり、法人内の共通の課題に対して様々な取り組みを行っている。今年度は、新卒採用計画の実行や法人70周年の記念行事の計画等を行った。新卒採用は年々効果が上がっており、6名採用するまでに至った。特に、高卒者の反応がよい傾向になって

いることから、次年度は、高校生に特化した採用活動で更に計画を充実させていきたい。

⑬大慈労働衛生委員会（毎月1回）

→職員の労働環境改善のため、各職種が集まって開催している。今年度も引き続き、職員健診結果で、「脂質異常症」と連続2回診断された介護職員に対する面接を実施した。意識向上に役立ち年々改善がみられている。また、介護職員の腰痛者対策のため、リフトの使用状況の把握や研修会を行った。現在腰痛者は24名と前年度と比較して6名減少しており、次年度も取り組みを推進させたい。

⑭大慈広報委員会（毎月1回）

→ホームページの運営・集客に関しては、切り替え作業に伴い、適度に更新ができなかったことが結果となり、目標達成率72%となった。ホームページ切り替え作業に関しては次年度に持ち越す形となっているので、運用管理を細かく行い、集客数UPにつなげたい。又、フォトコンテストに関しては全国老施協・ハッピーパックのコンテストに応募し、ハッピーパックの最高賞を入賞できた。各行事等に関して計画通りの実行となったので、積極的な情報発信を委員会主導で行っていきたい。

⑮大慈人事委員会（毎月1回）

→評価者毎や事業所毎に、人事評価基準の違いが感じられるようになっている。特に目標管理について、知識が少なく、取得の場も設定されていない。現在の評価者に対してフォローアップを目的とした研修の実施が必要である。

⑯大慈研修委員会（毎月1回）

→新人研修開催期間中での座談会では、新人研修期間中だけのことであるが新人が悩んでいた困っていることを部署以外の人間が聴くことで、退職理由になりうる問題を回避することに退職者がいなかったことからそれに結びついていると考える。交換研修では経験した事のない部署を体験でき視野が広がった、資格取得を目指したい等、前向きな意見を聞くことができたが、交換研修も2回目の取り組みの為、広く職員、老人部門全体に認知をしてもらうことと活動を増やし職員のスキルアップの向上を目指したい。中途採用式、入社式では大きなトラブルなく進行することができた。

⑰大慈社会貢献委員会（毎月1回）

→地域行事には可能な限り参加し、知名度の向上には繋がっていると思われる。今後も継続して参加し、地域にある身近な社会福祉施設としての立ち位置を確立していきたい。他、地域の諸問題に対してセミナーや研修会、講座を行ったが特定の地域に対してのみ行っている状態である。施設をとりまくニュータウン地区、農村地区と地区により抱えている課題やニーズは異なる為、その地区の課題を吸い上げ社会福祉施設が地域の社会資源として何ができるかを再考し実施していく必要がある。

日付	内容
6/12	福祉講座の開催
6/26	認知症サポーター研修の開催
7/30	樋谷納涼のつどいへの参加
9/3	樋谷川祭りへの参加
9/24	井吹のきらきら祭りへの参加

11/3	井吹西秋祭りへの参加
11/3	井吹東文化祭への参加
11/27	地域住民向け看取り介護の勉強会の開催
奇数月	介護予防のセミナーを開催。
毎月	地域の給食会の際に送迎を行う

1 4. 《リスクマネジメント報告》

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

①報告件数（1F→プラム棟、3F→一般棟）

○年度別事故件数

前年度に比べ事故報告47件増加。3Fでは減少したが、1Fでの増加が多く委員会で、再検討中である。

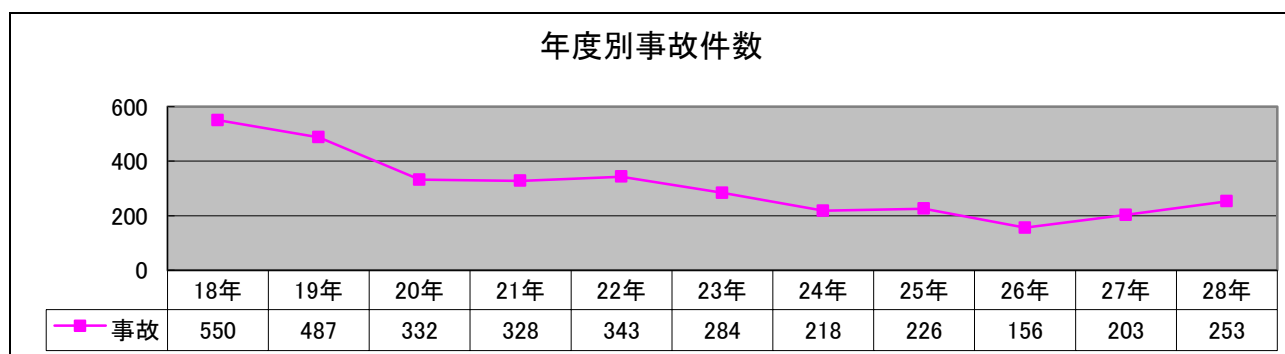
○平成28年度報告件数

1F

下半期には一部のハイリスクなゲストの事故と、精神的に不安定なゲストの人間関係のもつれから事故が頻発した。いずれも困難な事例で対応が遅れてしまったが、現在は精神科に受診等して同様の事故は減少している。現場だけでなんとかしようとするのではなく、今後は早い段階で他部署を交えて解決策を考えられるようにしていきたいと考える。

3F

前年度と比較すると、ドキドキ・事故件数共に増加している。下半期においては、ドキドキ件数が急激に上昇しており、ハイリスク者の増加が読み取れる。又、入退所による新たな情報共有や特定ハイリスク者への対応方法の共有・定着までに時間が掛ってしまい、9月～11月については類似事故が最も多く、その根本である情報共有の課題が浮き彫りとなった。次年度においては改善策を講じ、事故発生率を低下させる必要がある。

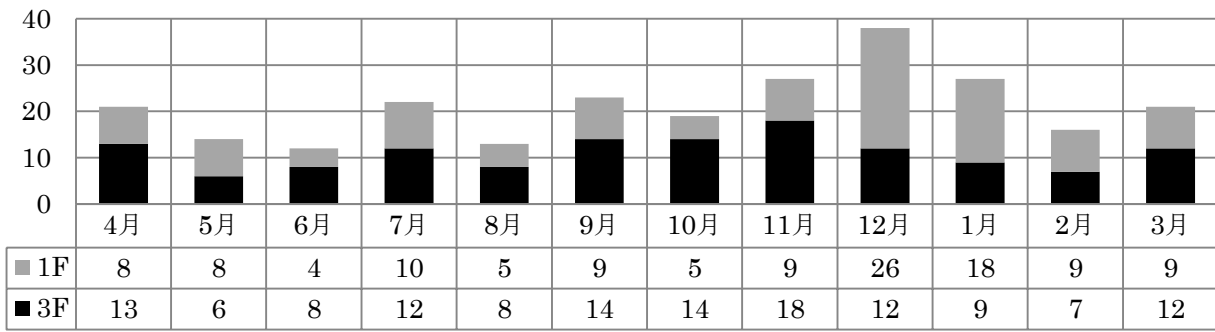


平成28年度				平成27年度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
	4,686件	253件	4,433件		4,066件	203件	3,863件

○内訳

平成28年度				平成27年度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
1F	3,256件	120件	3,136件	1F	3,198件	114件	3,084件
3F	1,430件	133件	1,297件	3F	868件	89件	779件

月別事故報告数



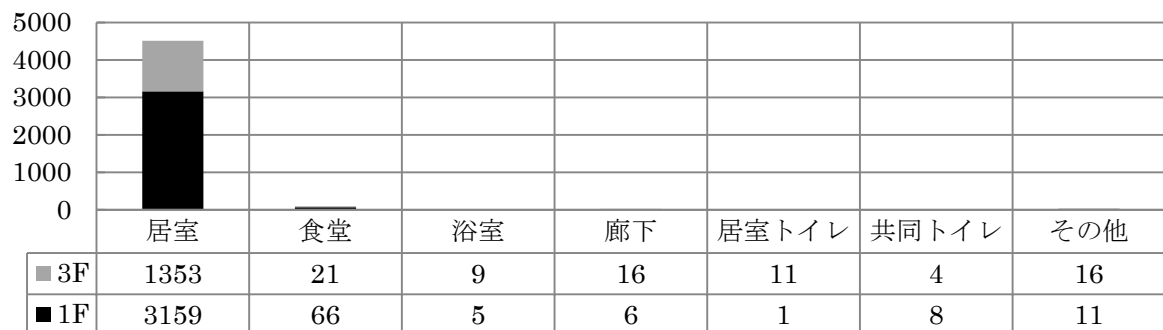
②発生場所別件数

1F

基本的に日中は全ゲスト食堂で過ごされる為、事故件数としては食堂が多くなっている。ドキドキに関しては夜間帯のセンサー反応が殆どであり、居室が多くなっている。トイレ内の事故は、殆どがその場を離れてしまう等の職員の不注意であり、リスクに対しての意識向上を図る必要がある。

3F

例年同様、居室での報告件数が最も多く、居室内での事故件数も増加している。介護機器の設定ミス・事故対策が上手く機能せず、類似事故が最も多かった。反面、食堂での件数が減少しており、人員配置を見直した事でリスク回避に繋がっている。又、ベランダ・パントリー・談話室での報告件数については、認知症の周辺症状に理解を深め、ケアの見直し、改善策を講じる必要がある。



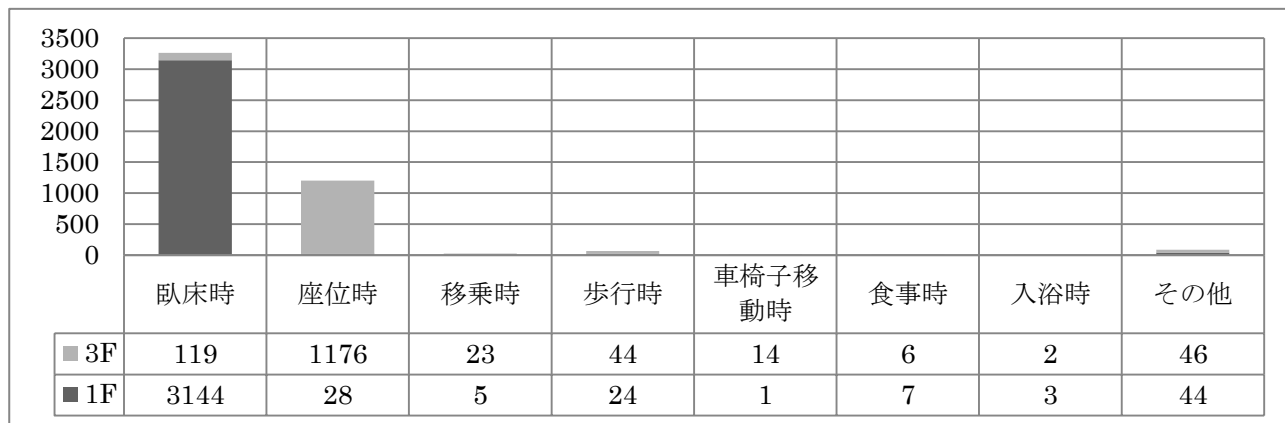
③発生状況別件数

1F

夜間帯のセンサー反応がある為、ドキドキに関しては臥床時が殆どとなっている。逆に事故を見ると臥床時以外は殆どが日中となっており、様々な介護の場面でリスクを予測する力が必要となっている。広い視野と柔軟な思考で現場を見る事が出来る様にKYT法等を用いての教育、指導を今後も行っていきたい。

3F

座位時の件数が大半を占めている。介護機器（ベッドセンサー・センサーマット）の使用状況は昨年と大きく変わっていないが、臥床時の件数が減少している事から、対応が遅れてしまっている場面もあるが、ハイリスク者のADLが前年度に比べ上昇している事が推測される。夜間帯の件数が殆どであり、少ない人員の中で職員はより危機管理を求められる事となった。



④発生内容別件数

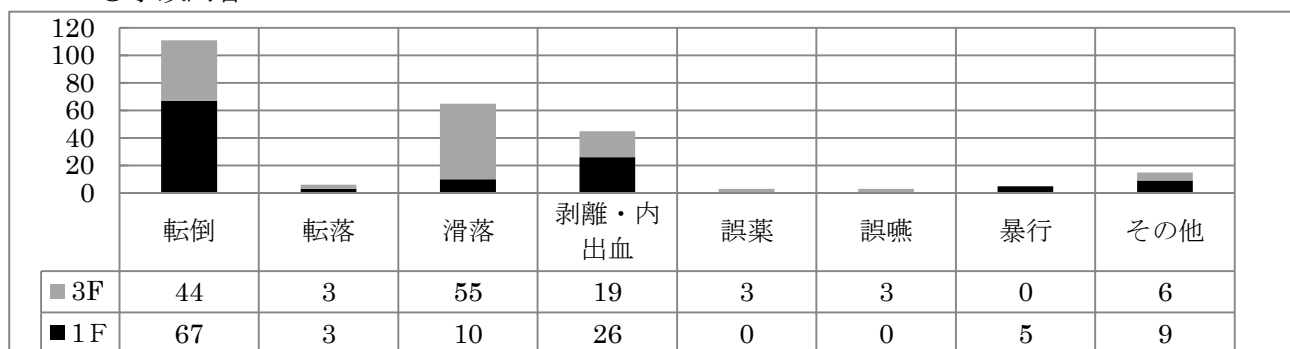
1F

剥離・内出血の事故が前年度と比較して2倍になっている。職員の不注意やスキル不足が原因である可能性が高い為、研修等を通して介護技術の向上を図っていけるようにしていく。

3F

転倒・滑落事故件数が昨年度と比較し、増加している。滑落事故増加の原因として、介護機器（センサーマット・ベッドセンサー）の使用ゲストを選定し、部署として『センサー設定ミスによる事故発生率0%』を目標としていたが、臥床後のスイッチ・居室ランプの目視確認を怠った事によるものが多かった。次年度において、職員への研修・教育が最重要課題としてあげられる。

○事故内容



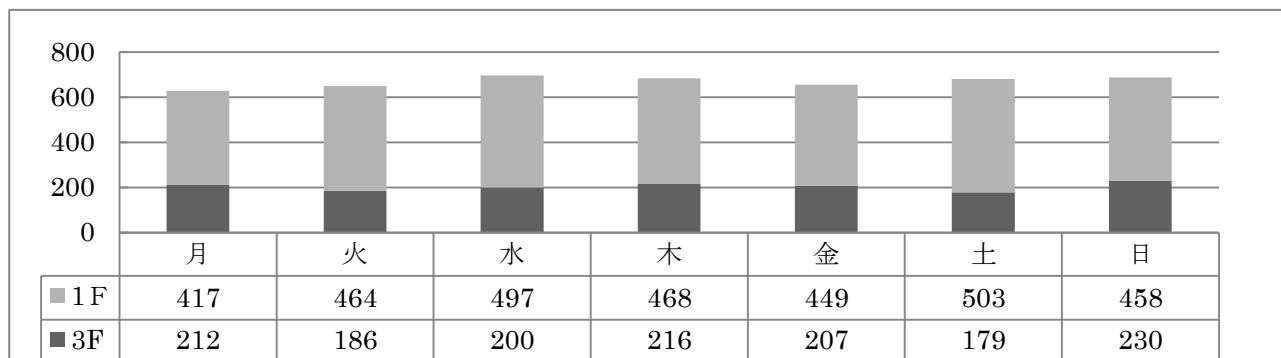
○ドキドキ内容



⑤曜日別件数

1F・3F

曜日別に関しては、ドキドキ・事故共に大きな差は見られない。出勤状況や職員数関係なく、職員の危機管理に対する意識が向上しつつある事が推測される。



⑥時間帯別件数 ※割合→全体に占める割合

早朝 4 : 00～6 : 59 朝 7 : 00～11 : 59 昼 12 : 00～16 : 59
 夜 17 : 00～22 : 59 深夜 23 : 00～3 : 59

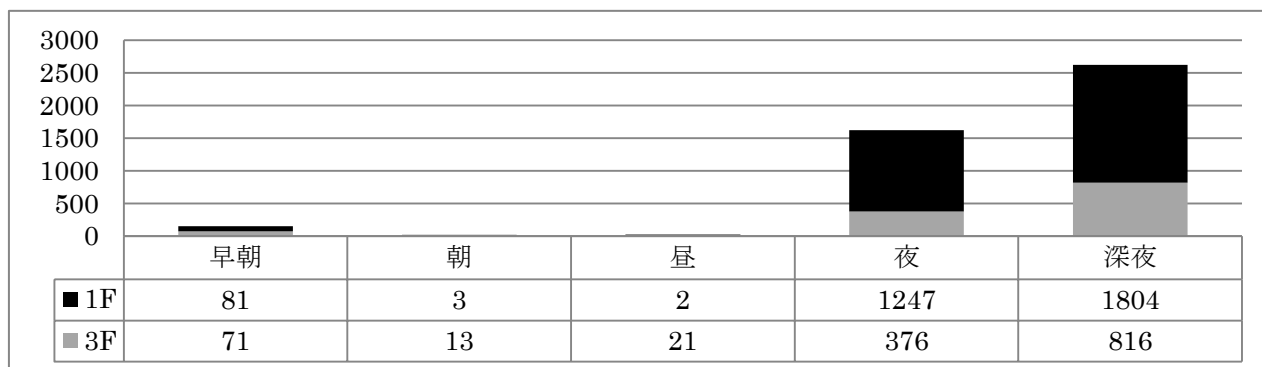
1 F

深夜から早朝にかけてはやや少ないものの、それ以外は関係なく事故が起きている。時間帯というよりは業務の流れから職員の数が減る時に事故が起きるという状態が続いている。業務内容の見直しや人員配置についても話し合いが出来る様にしていきたいと考える。

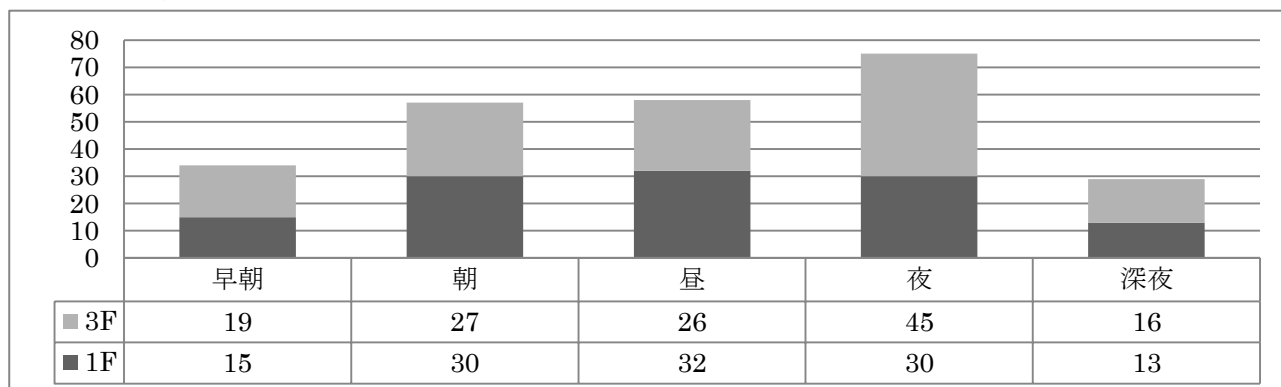
3 F

『夜』の報告件数が 1.5 倍増加し深夜・早朝の報告件数も上昇値を示した。これには夕食後のトイレ・移乗・更衣等のサポートが必要なゲストが多くなり、職員間の連携が上手くいかなかった事や昼夜逆転による不眠ゲストに対しての対応が機能せず、事故に繋がったケースも多かった。よって、『夜』の時間帯において人員配置を見直し、下半期より事故件数は減少値を示している。

○ドキドキの時間帯



○事故の時間帯



⑦まとめ

1 F

前年度と比較して事故は2件減少している。4月より部署での全体会議にてKYT法の実施や危険予知シートの導入等を行い意識向上を図ってきたが、それが上半期は結果として出ていたものの、下半期は上記の理由から事故が頻発する結果となった。介護経験が浅い職員が増えている事で、経験不足からリスクに対する認識が甘くなっている部分もあり、意識や技術向上の為に指導や教育は十分ではないと感じている。研修等を通して、知識・チーム力の向上を図り、部署内のスキルアップに努め、統一した安全な介助が行えるように努めていく。

3 F

ドキドキ・事故報告件数が前年度に比べ増加している。職員個々の特定ハイリスク者に対する危険意識は向上しているが、やはり突発的に起こる事故を予測した行動や日々の観察から見えてくる不安全状態・行動に対し迅速な対応が出来ていなかった事で事故に繋がったケースもあった。また、委員としての役割(①PDCAサイクルに沿ったリスク管理 ②情報共有システムの確立 ③KYT法による研修・教育)が十分に果たせていないのもかった事が事実としてある。反面、人員配置を見直し、事故検討を行った事でリスク回避に繋がったケースもあった。次年度においては、課題改善に向けた取り組み(①サービス標準化に向けた情報共有システムの見直し ②KYT法・遠藤メソッドを活用した研修・教育の定着化 ③啓発ポスターの活用)による職員個々の危機管理能力の向上を図り、目標達成を目指したい。

15. 《苦情・相談結果報告》

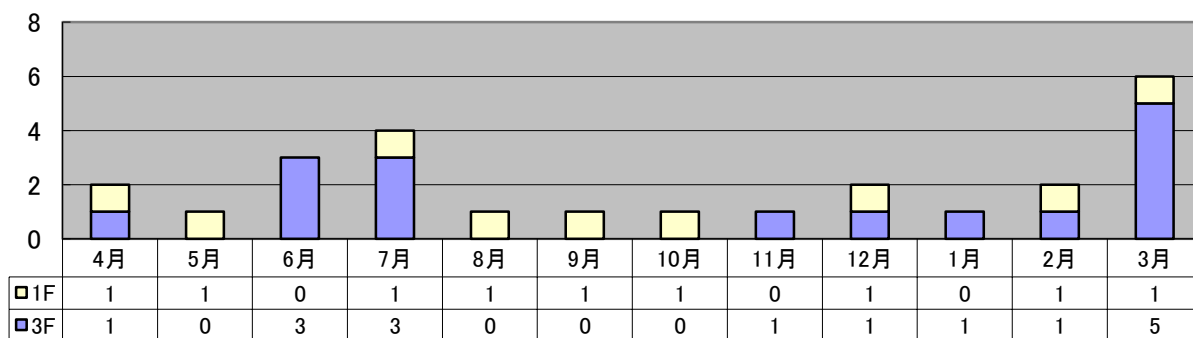
苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

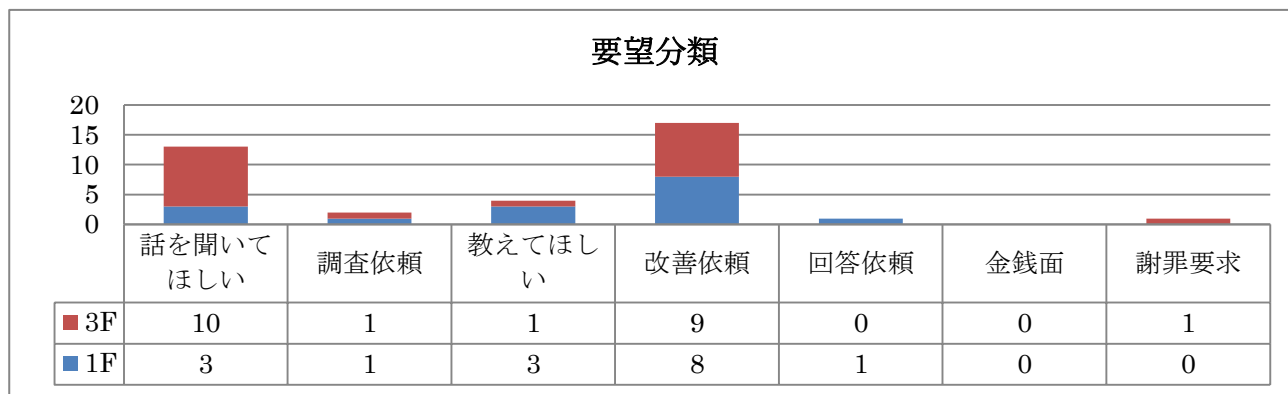
○報告件数 (1F→プラム棟、3F→一般棟)

28年度				27年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	25件	1件	24件		27件	0件	27件

○内訳

28年度				27年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
1F	9件	0件	9件	1F	5件	0件	5件
3F	16件	1件	15件	3F	22件	0件	22件





※複数回答しているため件数が多い。

○主な内容

- 1 F→ゲストのタンスを勝手に開けたり、訴えに対し迅速に対応できず、ゲストが不満に感じた。園の都合で居室変更後、元の居室に戻った際、荷物やポスターの位置が違ったので、不満に思った。ご家族面会時に居室トイレやシーツが便や尿で汚れている。衣服が多数紛失している。ご家族からの改善依頼に対し、迅速に対応できない時があった。義歯が破損した為、ご家族へ報告する際、断定的な言い方をした為、ご家族が不満に感じた。
- 3 F→個別ケア（衣類関係、軟膏塗布、着床時間、個人購入物品、食事関係など）への対応不足、誕生日会の連絡での不備、施設電話の操作方法の誤りでご家族の番号が着信拒否設定になっていた

○まとめ

プラム棟

収集癖や徘徊のあるゲストが、他ゲストの居室に入り、私物を収集したり、排泄を失敗する事で、ゲスト・ご家族が不満に感じているケースが多くあった。認知症ゲストの周辺症状に対する解決策を出し、部署として統一したケアを展開する事が大切だと感じている。また、職員が業務優先になり、ゲストが不快に感じたり、訴えをしっかりと聞けない事があり、基本的な尊厳の部分で教育が必要である。

一般棟

前年度同様に、個別ケアへの指摘が多く見られた。周知は行い対応するも、日にちが経過していくと薄れていく所が見受けられた。啓発ポスターやメソッドの活用を試みていきたい。また、ご家族自身を取り巻く環境や状況もケアをしていかなければならない相談内容も増えてきたと感じる。改めて、施設入所の方の社会資源を見直し、ニーズに応えていきたい。

16. 《総括》

①プラム棟

統一したケアを行う為に、毎月の会議では、普段言葉数の少ない職員も頑張って意見を出していた。また、経験の浅い職員が自分なりに資料を作り、認知症ケアについての講義も実施する事が出来た。仲間同士、助け合いながら業務を行う事は出来ていたが、年間を通じ、事業目標に向かって決めた対策等が出来ていなくても指導する職員が少なく、チームワークの向上までには至らなかったと感じる。事故発生率に関しては、前年度より3割減を目標としていたが、結果的には前年度より3件増えており、目標は達成することが出来なかった。だが、生きがい部門、環境部門それぞれに、目標に向かい取り組めたのではないかと考える。

今年度は、ゲストの布パンツ使用を増やすことが出来たため、来年度も、ゲストに合った排泄物品の見直しに力を入れオムツ発注率の大幅な削減を目指したい。

②一般棟

大慈弥勒園の中長期計画・重点目標を基に、平成28年度は各プロジェクトの遂行と『全ゲストの企画を行い、あなたが主役になれる行事を開催する』を単年度目標においた。目標達成に向け、4つの施策を考え、展開し数値目標とした全ゲストのニーズをくみ取り、企画立案し、年間66件計画・報告してきたことで、数値目標及び事業目標は達成となった。

それに伴い、前年度と比較しオムツの発注代金 ¥1,147,628円(前年度比-20%)の減少及び削減に成功できた。目標達成や代金削減の背景には職員一人ひとりの役割りを明確にし、責任感・正確性が高まる仕掛けを作る事で、効果が生まれ、目標に向けて、チーム・組織が動いたことを考える。

近年、施設を取り巻く環境(人材確保の困難・待機者減・制度変更・価値観の多様化・情報社会と比較)の変化により、特養(部署)において求められていることは、より厳しくなっていると感じている。伴い、マネジメント(危機管理・労務管理)において、根拠を必要とし膨大な情報を蓄えている状況である。そして特養のあるべき姿(理念・介護論)から現状を考えるとまだまだ、問題・課題は多く、品質向上は常に求めている。

次年度においても、PDCAサイクルを良循環させ、組織・チームの活性化を図り、安定な経営又はサービス品質が高まるよう、現場レベルから一つ一つ行動していく。

③全体

平成28年度重点目標を「組織力の強化」とし、①～⑦の施策を実行してきた。特に情報の共有に関して、連絡系統の整備や予定の徹底的管理を各部門は勿論、弥勒園全体で実行してきた。前年度より実行はしてきたが、今年度更に「組織全体で進化できた」と実感できたきっかけとなったのは、EPAの受け入れである。ベトナム人の女性を1名、当園で受け入れるために、現場研修班・生活班・日本語研修班の3つに分け担当職員をそれぞれ割り振った。初めてのプロジェクトであることから、各個人が連携を密にする必要があり、おのずとコミュニケーションが増え、職場全体が活性化された。このようなことから、EPAの導入は弥勒園にとって大変良い効果を生み出している。

大慈園設立20周年を機に施設の最終目標と中長期を再検討した。大慈弥勒園・大慈デイサービスセンターに勤務する全職員より「目指したい状態像」を募集し、最終的に「心地よい大慈」に決定した。

従来型特養を取り巻く社会情勢等が厳しくなっていく中、これまでの経験をいかし、新しい目標の基、次年度以降の取り組みにいかしていきたいと考える。